巻頭特集 みどり市在住の吉本芸人・アンカンミンカン

群馬に芸人の概念を持ち込んだパイオニア

ともに1983年生まれで小中学校の同級生が、コンビを組んで2007年にお笑い芸人になった。アンカンミンカンは2011年に故郷のみどり市に戻り、地方活性化のため県内を奔走する。2人に芸人を志したきっかけと笑いへの真摯な気持ちを聞いた。

よしもと住みます芸人 アンカンミンカン

中学時代に遊んだ麻雀で人を笑わせる快感を知る

人と人との出会いは不思議だ。小さなきっかけで一生が決まる場合もある。お笑い芸人を多数抱える吉本興業ホールディングス株式会社(以下、吉本興業)に所属し、故郷のみどり市に住みながら県内のイベントなどで活躍するお笑い芸人のアンカンミンカンも、何気ない一言から親交が始まった。

「ミスターチルドレン、聞く?」

小学6年生のときに転校してきた川島大輔さんに、最初に話しかけたのが富所哲平さんだった。

川島さんは子どもの頃から、お笑いや面白いことを考えるのを好んだ。しかし転校がきっかけで、教室での口数は少なくなり、おとなしい子に見られていた。

一方、富所さんは自他ともに認める明るい性格。中学校では生徒会長も務めた。目立つと、人から構われる機会も増える。「いじめではなかったけれど、泣いたこともありました」と、富所さん。その頃読んだ、ダウンタウンの松本人志さんの著書に、「いじられる・いじめられるのは、裏を返せば笑いのとれる状況」という一文があり、感銘を受けた。「実践してみたら、笑いに変わりました。ピンチはチャンス。これが僕のお笑いの原体験です」と、語る。

友人たちのたまり場は、いつも富所さんの部屋。遊びの中に麻雀があった。中学生で麻雀のできる子は少なく、いつしか川島さんのほか数人が集まって、卓を囲むのが恒例となった。芸名のアンカンミンカンは、麻雀用語に由来する。

「麻雀をしながら川島がボケる、僕が突っ込む、残りの2人が大笑いする。それが楽しかった」と、富所さんは振り返る。川島さんにとっても、本来の自分を出せる場所だった。

富所さんは当時、珍しかったインターネットを駆使し、関西でしか放映されないダウンタウンのビデオを何本も手に入れた。川島さんは、「人を笑わせる場があり、関東では見られないビデオが何本もある。富所の部屋に入り浸りました」と、話す。

多感な時期、人を笑わせ楽しませる快感と、貴重なビデオを見て笑った経験が、2人の共通体験として厚く培われていった。

目の前の人を笑わせるのが2人にできる最良の恩返し

高校は別になったが、2人は週に1度は会っていたという。

「将来はお笑い芸人になりたかった。でも高校の卒業が近づくにつれ、現実が見えてくると踏ん切りがつかない。人生で初めて味わう感覚でした」と、川島さんは振り返る。

高校卒業後、富所さんは国立千葉大学へ進学。川島さんも専門学校へ進んだが、学校が偶然千葉県にあり、お互いのアパートまで10キロメートルほどの距離だったという。2人の親交は途切れることなく続いていった。

富所さんの大学卒業を機に、2人は揃って吉本興業が主宰するNSC東京へ入学する。以来、同社が地域活性化を目指し、全国にお笑い芸人を派遣する、あなたの街に〝住みます〟プロジェクトに立候補するまで、4年ほど在京した。

同校では講師の前で、1分間の漫才やネタを披露する授業があった。これがとても苦手だったと2人は口を揃える。

授業の合間には週に1度、台東区浅草のよしもと浅草花月劇場で、開演前の盛り上げ役をした。支配人から時々、盛り上げ方を変えるように言われ、さまざまなパターンを試したという。どんな客層が、どんなネタに笑うのか。客席の空気の読み方を学び、磨きをかけていった。1分間で漫才をするよりも、目の前の人をどう笑わせるかが2人の性に合っており、客席が沸いたときは快感だった。

会場の空気を読む力は、のちの住みます芸人の仕事に生かされていく。

「僕らが2011年に群馬県に戻るまで、地域密着で活動するお笑い芸人はいなかったんですよ」と、川島さん。2人は群馬県に、お笑い芸人という文化を持ち込んだ先駆者だった。

「住みます芸人の中には、徹底して自分たちのネタの披露をする人もいます。でも司会で呼ばれたら、ネタの披露より会場内を盛り上げるのが僕たちの仕事です」と、富所さんは語る。持ち時間によっては漫才も披露するが、必ず観客を構い、笑いに変えていく。

「イベントの目的を念頭に、どんなお客さんが来ているかを観察します。僕たちも同じ目的で来ました、一緒に盛り上げましょうという気持ちでいると、お客さんがよく笑ってくれます」と、2人は笑顔を見せた。

ネタの打ち合わせも早く、アドリブも阿吽(あうん)の呼吸で笑いをとる。コンビを組んで15年目だが、過ごした時間は20年以上。しかし互いの関係はあっさりしている。長く一緒にいたからこそ、程よい距離感を保っていられるのだ。

「吉本芸人というネームバリューがあるから、僕たちに興味を持ってもらえる部分があります。それを忘れず、多くの人を笑顔にし、誰かの役に立ったり、お手伝いをすることで、出会った人に恩返しをしていきたい」と、2人は言葉を重ねた。

幼馴染から仕事のパートナーとなり、お笑い芸人という存在を示したアンカンミンカン。これからも県内を飛び回り、出会った人々を楽しませる笑いを届けていく。

2人は20年来の友達!

中学時代のスナップ。手前が富所さん、奥が川島さん

FMぐんまではパーソナリティーとしてトーク

イベントの司会進行は、観客の反応を直に感じられるのが楽しい

群馬テレビの「カラオケチャンネル」の司会を務める

観光大使として群馬のいいところをPR

- デサント藤原湖マラソン特命PR大使(2011年8月10日~)
- 桐生うどんスタンプラリー2011PR大使(2011年10月3日~)
- 群馬県みどり市初代観光大使(2011年12月8日~)
- ぐんま観光特使(2012年03月28日~)
- 岩宿村収穫祭りPR大使(2012年10月20日~)
- 道の駅おおた観光PR大使(2012年11月18日~)
- まちなかテレビ広報部長[7](2014年11月6日~)
- 桐生市本町六丁目商店街ふれあい大使(2014年11月6日~)
- ぐんまの地酒大使(2015年4月15日~)

吉本興業ホールディングス株式会社所属
アンカンミンカン
富所哲平YouTube 「とみちゅ~ぶ」で検索
川島大輔ツイッター @waaaaa_maaaaa__

フリモARアプリをダウンロード
App Storeからダウンロード Google Playで手に入れよう で「フリモAR」を検索

※AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc.の商標です。
App Store℠はApple Inc.のサービスマークです
※Google Play および Google Play ロゴは Google Inc.の商標です

文/小林美佐子 写真/篠原亨 写真提供/アンカンミンカン デザイン/伊藤剛志